

2011 アートマイル 報告書

日本学校名[岐阜県立岐阜聾学校] 担当教諭名[大前 奈津香] (中学部2年組 6名)
 交流相手国[インドネシア]
 海外学校名[SMP LUAR BISIA KARYA MURIA] 担当教諭名[Agus Hadi Mulyo Wasono]

■実施教科・時間数について教えてください。

実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した時間 総合は外国語活動、環境 など内容が分かるように。 必要に応じて行を追加して ください。	総合的な学習	国際理解	23

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	日本とインドネシアの絆
絵に込めたメッセージ 作品展示の際に掲載 することがあります。	インドネシアの人たちと、日本の人たちが国境を超え、仲良くすることができるように。

半分描いた絵と完成作品の画像を貼付してください。 ※Web 公開しますので児童の顔などの扱いにご注意ください。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ●海外の聾学校の様子を知ることができた。いろいろな質問をし、それに答えてもらったことで、国は違っても自分たちの学校生活と同じである点、反対に違う点などが分かり、生徒たちにとって良い刺激となったようである。 ●自分たちの描いた絵がインドネシアに到着し、交流校の生徒がそれを囲んでいる写真が送られてきたときに、「自分たちが描いた絵が、今はインドネシアにあることが不思議な気がする」といった生徒がいた。世界とのつながりを感じた瞬間であったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●余裕をもった交流計画の必要性。 1) 学校紹介、地域紹介等は交流校が決定する前から早めに進めておく。 2) 相手校がルーズな場合もある。校内での発表等を考えているときは、実際より早めの日時を提示する。また何度連絡しても反応がなく、授業計画が狂うこともあるので、そういった際の代打案も必要である。 ●英語力・・・授業で習った英文を使えるようにする。

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
文化祭でも展示発表。(①アートマイルの説明②フォーラムや自己紹介カード交換といった交流の様子③半分完成した絵を展示)	<ul style="list-style-type: none"> ・このような交流はなかなかできない。貴重な経験ができている。(卒業生) ・授業でやる英語の学習ではなく、交流という必然のなかで英語力が自然と身についていくと思う。(英語教師) ・絵に迫力がある。(来校児童) ・私たちもやってみたい。(他学年生徒)

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	7月 9月 10月	●アートマイルとは (アートマイルの説明、ホームページで過去の作品を鑑賞) ●学校紹介、地域紹介、学校行事紹介	●「へーおもしろそう」「どこの国と交流できるかな」など活動に期待感をもっている様子が見られた。 ●英作文に悪戦苦闘。最初は面倒くさいと言っていたが、やりとりが始まると、楽しくなったようで、嫌がらずにやるようになった。	総合的な学習
情報収集	10月	●インドネシアの基本情報検索(インターネットにて) ●インドネシア語で話そう!	●バリ島を知っている生徒は多かったが、インドネシアの島の数の多さには驚いていた。 ●インドネシア語であいさつすることが一時期流行った。	総合的な学習
テーマ検討	10月	●「絆って何だろう?」ということを話し合った後、自分のイメージを描いた。 ●フォーラムにそれらをアップし、相手に一番良いと思う作品を選んでもらい、さらにより良くなるようにアドバイスを求めた。 ●相手校が絵を選び、それに伝統文化を付け加えたいとの意見をくれた。 ●それを受け、歌舞伎の絵を追加することになった。	●自分の想う「絆」を、それぞれが懸命に表現した。絵を描くことが苦手な生徒もいたが、自分の思いはしっかりと持っており、自分の言葉で語る事ができた。 ●自分の絵が選ばれなかった生徒も、どんな伝統文化を追加するかを話しあう課程で、これが自分たちの絵だという意識を持っていたように思う。	総合的な学習
制作	11月	デザインをした生徒が鉛筆で下絵を描き、その後担当を決め、色塗りを始めた。	デザインをした生徒が中心となり、皆で協力し仕上げることができた。描き終わったときには、達成感と満足感を口にしていた。そしてこれから相手がどんな絵に仕上げてくるのかをとっても楽しみにしていた。	総合的な学習
鑑賞			実際の作品はまだ送られてきておらず、鑑賞ができていないのが残念である。自分たちの絵がインドネシアに届いたときに、海外の学校とつながったという喜びや、また相手の制作過程の映像を見たときには、共同制作というものへの期待感は感じられた。	

■学習目標と成果はどうでしょうか?

「重視」には指導にあたって重視した順位を数字で記入してください。

「先生の手応え」の評価 (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:まったく関連がなかった)

つきたい力・指導目標	重視	先生の手応え	そう感じた場面・理由
自文化の理解		5・4・3・②・1	時間がなくて、学校紹介の内容を教員側が導いてしまった部分もあった。
異文化の理解	4	5・4・3・②・1	「異文化」の「理解」というところまで行き着くには、もっと時間が必要であった。
コミュニケーション力(説明・共感・英語)	2	5・4・③・2・1	英語でのやりとりはかなり厳しかったが、返信を楽しみに待つ姿やこちらの想いを伝えたいという気持ちが見られた。
情報活用能力(情報収集・発信)	5	5・4・③・2・1	情報収集にあまり時間をとることができなかったが、発信と言う点で、文化祭の発表には懸命に取り組んだ。
人間関係をつくる(学級内・交流相手)	3	5・④・3・2・1	相手に質問したいことがあり、実際にそれをできたことは成果であった。
協働する力(役割分担・協力)	1	⑤・4・3・2・1	自分たちで描画活動を進めていくことができた。
学習を追究する意欲		5・4・③・2・1	返信が滞ると、意欲が萎えてしまうこともあったが、やってみたいことを述べる場面も見られた。
表現力(伝えたいことを絵で表す)		⑤・4・3・2・1	それぞれが考える「絆」を、イメージ画で表すことができた。
作品を鑑賞する力		5・4・3・2・1	